

お薬手帳ホルダー活用状況等に係るアンケート調査について

1. 概要

- 「おくすり適正使用促進事業」では、お薬手帳の持参を促し、薬局における服薬情報の一元管理を促進するため、2018年12月に県内の重複服薬者^{※1} 10,344名を対象にお薬手帳の持参を促す「ポケット付きお薬手帳ホルダー」と普及啓発用のリーフレット^{※2}を郵送で配布した。

※1 後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、2018年4月から7月までの間に、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品の処方を受けている者で、以下の者を除く。

- ・がん、認知症、うつ、統合失調症の者
- ・死亡している又は資格喪失している者
- ・住所が県外の者（県外施設入所者）

※2 お薬手帳を持参することの意義やメリットについて普及啓発するためのリーフレット。お薬手帳を一冊にまとめること等を促している。

- 今回、福岡県薬剤師会会員の薬局を対象にお薬手帳ホルダーの使用状況等をアンケート調査したので、その結果を報告するもの。

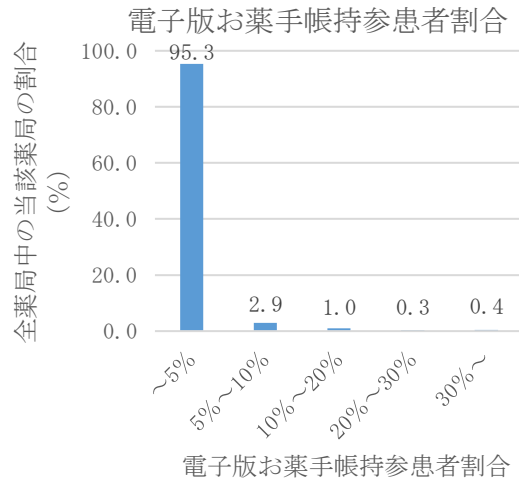
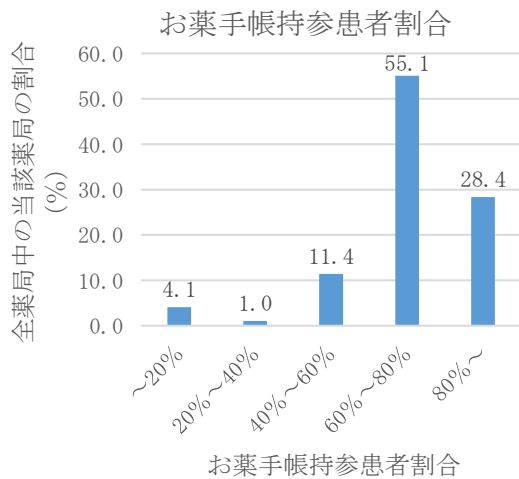
2. 結果及び考察

実施期間：2019年3月15日～2019年4月5日

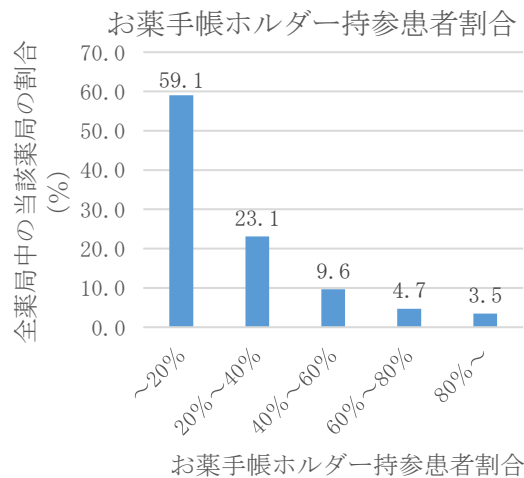
実施方法：福岡県薬剤師会を通じて会員薬局にアンケートの協力を依頼し、各薬局が県のweb上で回答。薬務課にて集計。

県内薬局数：	2,891
福岡県薬剤師会会員薬局数：	2,427
アンケート回答数：	684件
回答率：	28.2%

- 来局患者中、お薬手帳を持参している患者の割合が、60～80%、80%～であった薬局がそれぞれ 55.1%、28.4%であり、お薬手帳の利用がかなり普及している。一方で、お薬手帳持参患者のうち、電子版のお薬手帳だった割合が～5%である薬局が 95.3%と、電子版のお薬手帳はほとんど普及していない。



- お薬手帳を持参した来局患者中、お薬手帳ホルダーを持参する割合が、～20%、20～40%、40～60%、60～80%、80%～であった薬局はそれぞれ 59.1%、23.1%、9.6%、4.7%、3.5%であり、お薬手帳ホルダーを持参する患者が少ないことがわかった。



- ただ、県作成のお薬手帳ホルダー持参患者が確認できた薬局（22 施設）のうち 7 施設（31.8%）で、重複服薬を確認、是正を試みており、また、9 施設（40.9%）で、お薬手帳の複数所持確認による 1 冊化への指導等、薬局での是正指導が確認された。

3. 今後の予定

- 福岡県薬剤師会の協力を得て、重複服用やお薬手帳の確認を兼ねた患者アンケートを薬局にて実施し、重複服用の是正及びお薬手帳1冊化への指導を行う。
- 福岡県保健環境研究所にて、レセプト分析により解析、検証を行い、今年度の効果的な配布方法の検討を行う。

<参考>

～お薬手帳は一人一冊に～

- ◆お薬手帳は、あなたが安心してお薬を使用するための大切な記録です。
- ◆医師・薬剤師が治療にかかわる上で重要で欠かせない情報です。
- ◆薬の重複やよくない飲み合わせを未然に防止できます。

- ・医療機関や薬局にはお薬手帳を必ず持って行きましょう。
- ・体調の変化や気になったこと、医師や薬剤師に相談したいことを、お薬手帳の余白などに書いておきましょう。
- ・飲んでいるすべての薬を一冊で記録することが大切です。病院や薬局ごとにもらったお薬手帳は『一人一冊』にまとめましょう。



「お薬手帳ホルダー」は、保険証・診察券などをいっしょに収納できます。ぜひ、ご活用ください。



- ・現在飲んでいるお薬で気になることがありますか？
副作用のこと、飲みにくさのこと
他のお薬や食べ物との飲み合わせのこと
- ・自分の飲んでいるお薬が多いと感じますか？
- ・お薬はできれば減らしたいと感じますか？
- ・別々にもらったお薬が重複していないか確認してみませんか？



お薬のことで、気になること、相談したいことがございましたら、医師・薬剤師にご相談ください。

福岡県保健医療介護部薬務課・医療保険課
福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会



左図：普及啓発用リーフレット

上図：ポケット付き

お薬手帳ホルダー